



『孤塁—双葉郡消防士たちの3・11』
岩波書店 一八〇〇円＋税

吉田千亜 著

孤塁

昨年三月、八年目の3・11。その日を前にして雑誌『世界』で連載がはじまった「孤塁」。本書は連載に大幅に加筆してまとめられたものだ。一一年三月一日の当日から、福島県双葉地方広城市町村圏組合の消防本部、浪江、富岡、楢葉川内、葛尾の消防署、分署、出張所の消防士・職員の様子が膨大なインタビューをもとに再構成・活写されている。著者が集中的にインタビューを行った



グラビア	地域を支える人 林 勝一さん 田村鮎美さん・東京都	1
発掘! 地域の希望のタネ	徳島県佐那河内村 〈さくらももいちご〉	5
給食のじかん	〈れんこんのだんご汁〉 石川県金沢市 前 信之	6
書評	吉田千亜 著 『孤塁—双葉郡消防士たちの3・11』 菅原敏夫	8
焦点	気候危機に立ち向かい動き出す世界 世界と日本の落差を我々はどう埋めるのか 平田仁子	10

特集 二〇四〇年の自治体のすがた

	圏域マネジメントの必要と効果 新川達郎	16
	二〇四〇研・地制調の自治体像を探る 堀内 匠	29
	副首都・大阪にふさわしい大都市制度とは 自治労大阪府本部 二度目の住民投票に対して 「自治と未来を結ぶ会」	39
	まちをもっと楽しく、輝かせるために つばめ若者会議の取り組み 外山敬太	45
	持続可能社会の実現にむけた 高知大学次世代地域創造センターの取り組み 吉用武史	54
インタビュー	「関係人口」を増やす多彩な活動 柚木理雄	62
	行くべし! 青森自治研 ①待ちゅうはんでのう! 赤平泰衛	68
各県自治研活動レポート	広島県地方自治研究集会と自治体財政講座 広島県本部 玉井郁生	70
連載	『月刊自治研』を読む〈第五季〉⑥ 医療制度における「自治体の仕事」 篠田 徹	72
	自治研センターの機関誌案内	79
	次号予告・編集部から	80

のは一八年一〇月からだという。地震・津波・原発事故から七年半が経過している。記憶の小さなピースは欠落しているものもあるかもしれない。しかし、伝えるべきことが固まり、伝えるべきさという必要性は、時間の経過とともに逆に増えるべき。伝えるべきは、

伝えるべきは 著者は記す。若い消防士が涙を流すのを見た。その消防士は述べた。「自衛隊やハイパーレスキュー隊のことは報道されたが、双葉消防本部の活動だけが報道されず、誰にも知られていなかったことがつらかった。」

そのつらさは現実のものとなった。「Fukushima50 (フクシマファイフティ)」という映画が完成、公開されるぞうだ。予告編しか観ていないのにここに持ち出して比較するのはよいやり方ではないかもしれないが、映画ではない現実、原発

内免震重要棟からの急病人の搬送、放水のための水の確保、四号機火災の通報と出動。より危険な屋外での活動は双葉郡の消防士によって担われ、被ばくを余儀なくさせた。記憶に留められなければならないのはこちらの方なのではないか。

文字でこそ 以前本欄でも取り上げた(一六年二月号)スベトラナー・アレクシエービッチの『チェルノブイリの祈り』を思い出していた。この記録は文字によってのみ可能だったと。映像でもフィクションでもなく。肌触りの違う作品だが、本書も、もう一つの「文学」かもしれないと思った。もうすぐ九年目の3・11がやってくる。消防本部のHPをみると「消防本部は現在、楢葉分署の敷地内に仮庁舎」と書かれている。復興なんてまだ語れる地点にまで至っていない。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員